

年頭所感

社団法人日本金型工業会
会長 上田 勝弘

謹んで平成24年度の新春を迎えてのご挨拶を申し述べます。
会員の皆様も引き続き厳しい経営環境を耐えしのぎ心新たに新春を迎えられた事と存じます。

昨年は天災、人災、経済災という複合災害に見舞われた戦後最大の日本列島受難の年であったと思います。一日も早く被災地の復興が進展する事を切に願っております。しかしながら日本の「ものづくり産業」特に我々金型産業は、引き続き大手ユーザーの海外進出が止まらず、受注額が大きく減少し続けております。超円高現象も長期化するものと思われれます。又、金型の受注コストも人件費、電気、材料、輸送費、法人税率等々、アジア諸外国に比べてすべて高く、まるでハンディキャップのあるゴルファーがスクラッチで勝負するようなものですから、基本的に勝ち目はありません。品質レベルで同等クラスの金型は海外調達が多くなっています。我々がこれからの生きる道は、①自社の得意技術を強くしていくこと ②営業力を強化すること ③海外進出する体制を作り上げること ④他社との連合を考え企業力を強くすること ⑤国内の人材の育成や海外との人的ネットワークを構築すること ⑥中小企業に対する補助、支援制度を効果的に活用すること ⑦国内外のユーザー等の情報を最大にキャッチしながら経営戦略を立てることなど、色々な諸方策を駆使して頂きたいと思えます。

社団法人日本金型工業会は、会員の皆様の身近に発生する取引上のトラブルや相続や知的財産権問題、経営の問題等にもお応え出来るべく、経済産業省との連携を強めて頑張る所存でありますので、会員の皆様方も一体となって金型工業会活動を盛り上げて頂く事を期待しております。